

町田税務署長賞

『おじいちゃん』

町田市立山崎中学校 3学年 龍 彩花

去年の三月一日。私は、いつも通り学校に行って部活をしてから家に帰宅をした。リビングに入ってテレビを見ていたら、深刻そうな顔をした兄が隣に座ってきた。何かあったのかと思い、

「どうしたの？」

と兄に問いかけたら、

「今日の朝、おじいちゃんが倒れて、亡くなった。」

そう言われた。私は、頭がまっしろになった。実感が湧かなくて、言葉も出なかった。それぐらい、人生で一番衝撃的なことだった。

私のおじいちゃんは、家から歩いて5分位のところに住んでいて、保育園の頃はいつもお迎えに来てくれたり、体調が悪いときは看病してくれたり、いっしょに公園までお散歩をしてくれた。やさしいけれどちょっと頑固な大好きなおじいちゃん。

そのおじいちゃんが亡くなったと言われ、呆然としている私に母が

「明日、警察署の安置所へお迎えに行くから、お父さんとおばあちゃんと一緒に行ってきてくれる？」

と言われたから、学校を休んで行ってきた。警察署では、おじいちゃんが眠るように横になっていた。父と祖母は葬儀の準備でとても忙しそう、私は何もできないことが何だかとても悲しかった。

また、おじいちゃんの顔を見ると、おじいちゃんと過ごした思い出が蘇ってきて、余計悲しみに包まれていた。葬儀は一週間後になった。私は、翌日からいつも通りまた学校に行くことになったけれど、気持ちが沈み、学校に行くのに嫌気が差した。時々、悲しい気持ちになって、ずっと、頭の中でグルグルしていた。

家族から聞いた話では、おじいちゃんは救急車で病院に運ばれたけれど、救急隊の方がずっと心臓マッサージを続けていた事、最後にお悔やみの言葉とお線香を供えてくれた事。たくさんの方がおじいちゃんの為に行動してくれた。結果的におじいちゃんの命を救うことはできなかったけれど、おじいちゃんの為に行動してくれた方々に感謝の気持ちしかない。そして、たくさんの方からのサポートは、ほとんど税金から出ていることを学んだ。税金が高いとSNSでよく聞くけれど、税金によって助けてもらったことを私は忘れないようにしたい。そして、私もしっかりとおじいちゃんのように、しっかりと納税をしようと思った。